

全国大会二日目 代議員の発言

第七十六回全国大会の特集
7月30～31日



国鉄新潟

NO. 642
発行
2008・8月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者 守橋久仁雄
編集責任者 教宣部



中間答弁

- 三セク問題・並行在来線の問題についてどうか
 - 守る取り組みは方針にも掲げている。いろいろ参考にしていく。
- 三島・貨物問題についてどうか
 - 並行在来線の問題と一緒に取り組んでいく。
- 新人事賃金制度導入についてどうか
 - それぞれJR各社の制度の分析をしていく。できる限り情報化していく。
- 全国统一闘争について どうか
 - 安全問題は特に全国统一行動として取り組む。通年闘争として運動を続ける。
- アスベスト対策について どうか
 - しっかり受け止め退職者組合とも連携をとって取り組む。
- 組織対策費について
 - 拡大の状況を作り出す、これを生かして運動を広げていく。7月からの徴収になったのは、2・4協定の関係で控除をとめることが難しいため。組合費の値上げではないこと。組合員数の減少で拡大の条件を生かしていくため。値上げではなく組合費に準じた取り扱いに。
- 非正規労働者の問題について
 - 規制緩和について疑問や問題意識が国全体の課題になっている。
- JR不採用事件について
 - 署名行動（全国会議員署名）について状況をみて判断していく。四者四団体の団結を堅持する。この陣形を堅持し闘っていく。今後も、今までの運動を地道につくりあげていく。地方の集会・大衆行動を積み上げていく。お盆明けに地方で集会が開催され、そこへ中間が派遣される、その後、東京で集会が開催される。



●**並行在来線** 政策提言をまとめ運動を進めていく。方針書からも三セク化の厳しい経営状況の実態を訴える。自治体で対策会議の設置をする。新幹線は地元の足にならない。運賃値上げになるなら新幹線はいらぬなど、訴えている。国とJRの責任として、三セクの見直しJRも経営に参画すること。**連合の加盟** 結成の経過と国労の対応について考えると、**どうか**のか？



●**並行在来線** 三セク問題 赤字により運賃値上げが発生している。対策会議を設置する。並行在来線の闘いは、地域の雇用と足を守る闘いだ。**国鉄闘争** 四者四団体の団結から紋別闘争団のオルグが長野で実施、物販の取り組みで売り上げが上がっている。この取り組みによって国鉄闘争を風化させない。**組織拡大** 国労運動の継承は組織拡大にある。四名の拡大の成果は世話役活動から実現している。和解したことも。

●**JR不採用事件** 闘争団員は四十八名亡くなった。さまざまな仲間の団結と闘いの到達点だ。四団体の団結と闘いの到達点だ。マスコミの活用を、マスコミを動かすこと広く訴えるための取り組みが必要だ。自治体意見書の活用、地元出身議員への働きかけから中央への要請へと発展した。政府、JRなどへの訴えや大衆行動を強化する。**雇用・年金・解決** 金は何としても勝ち取る。入り口から出口まで総団結をする。納得する解決、それが国労の展望を切り開く。運動に自信をもち解決に向けて運動を進める。本部オルグの実施を要請する。闘争団や家族に必要と考える。

●**春闘** 職場交渉の展開、現場長への申し入れを実施した。自らの要求は自らで勝ち取る。組織拡大の活動の共有化を全体で討議し進める。国鉄新聞の字体を大きくして欲しい。**JR不採用事件** 四者四団体の堅持。入り口から出口まで団結し闘いを進める。JR連合への協力要請を行なっていく。





JRR不採用事件 四者四団体の闘いが解決への道筋につなげてきた。雇用・年金・解決金の要求は政治的に解決すべきだ。当事者の納得のいく闘いをする。大衆行動・国交省交渉・国会への要請行動から闘いをとうして団結を勝ち取る。●**規制緩和** 深刻な問題になっている。非正規労働者をどう守っていくのか。JR社員よりも非正規労働者から国労加入がある。組織と運動が結合して共闘組織が結合する。地域での闘いの強化を進める。●**貨物和解** 和解以降、和解は闘いを取り除くものではないはずだ。ストライキの要請を、原点にかえる闘いだ。組織対策費との両輪で取り組んで欲しい。●**アスベスト** 労災認定を勝ち取る。労働戦線の統一の再構築がサブスローガンから消えたのはなぜか？



●**組織拡大** 活動を通じて分会活動が活性化された。現場長への申し入れが実施された。国労が職場の中心になることが重要だ。分会長会議の開催で組合員に徹底を図った。

●**JRR不採用事件** 四者四団体の統一行動を展開してきたが政治解決への道筋が不透明だ。全体の団結と国会などの窓口への要請について強化する。七月十四日、高裁の和解提案について当事者は重く受け止め歓迎している。妨害に動じない団結の強化、闘いを進め要求（雇用・年金・解決金）の獲得を求める。雇用は一番難しいので、闘争団は求めている。事業体同士の強化、発展を進める。年金は、十万八千円と低額だ、回復を求める。●**雇用** 地方では大変厳しい状況だ。JR北海道、自治体、連合、政党など、それぞれの

分野で取り組んでいく。若い闘争団員をJRへ戻すことを求める。解決テーブルを早急に設置させる。雇用を頂点とする三項目の獲得を求める。裁判では賠償金のみ話し合いが進むので外で交渉をやること。判決が出るまで総力戦で闘う。あらゆる集会、闘いを地方からつくりあげる。

●**JRR不採用事件** 要求の三本柱を勝ち取る。裁判所内だけの闘いではなく政治的解決を求める。



賠償金だけの交渉にならないようにしていく。政治解決を求めていく。新人事賃金制度導入されたが評価がおかしい。成果主義賃金導入は疑問だ。

●**貨物和解** 未来志向の労使関係を追求める。会社側の労務管理が変わった。和解が労使の癒着につながると言っているが、公平・公正な人事運営につながる。経営協などにも本部三役が出席し



て欲しい。そこで健全な労使関係をつくる。●**組織拡大** 職場の運動から拡大。宣伝・ニュースの発行も重要だ。貨物の労働条件改善の闘いを強化する。

●**JRR不採用事件** 連集集會開催の展開や毎月十六日に集會の開催、宣伝行動に支援の仲間が多く結集している。北海道のオルグ団との交流が実現し交流が深まる。四者四団体の団結、闘いが南裁判長の発言や国交省大臣の発言につながっている。鉄道運輸機構、政府への闘いを強めていく。●**組織** 社員数が発足時の一万人から九千人を切る社員数になった。組織拡大交流集會開催で活動の交流を深めることができた。●**平和の問題** 六十三年度の広島長崎の原爆の年を迎える。これを風化させない。反戦・平和の取り組みを強化していく。

本部 答弁

- 並行在来線の取り組みについて
 - 対策会議で運動に生かしていく。雇用問題も含め重要な課題だ。会議の中で検討していく。
- アスベスト問題について
 - 対策委員会でしっかり取り組みを生かしていく。
- 新人事賃金制度について
 - 対策し検討する。各社による成果主義を検討する。
- 利用者アンケートについて
 - 協力していく。地方交通線を守る。並行在来線の問題について各地本とも交流をしていく。(対策会議)。
- ★書記長 答弁
- 国鉄新聞の字体について
 - 字体を大きくした。
- 貨物和解について
 - 経営参加への本部要請について和解を生かせる取り組みをしていく。
- 本部オルグについて
 - 多くの時間が無いが持ち帰って検討する。
- 機関会議について
 - 全体の意思統一の場をつくっていく。



国鉄新潟

642号 ②



●**安全問題** 東海でアンケート調査を実施。二万枚配布し二百八十通を回収した。利用者の要望では、新幹線ばかり金をかけている。在来線への投資をして欲しい。トイレの無い列車についての改善など。アンケートからJR東海へ、国労は『東海の会』と面談を要請しているが実施されていない。しかしアンケートの影響はあると考える。運輸局への要請は実施した。東海交通事業から国労加入があった。厳しい労働条件について国労と東海交通事業が連携し交渉を行った。内容は、未払いの超勤の支払い。関連会社の出向について。●**JR不採用事件** 四者四団体の闘いの積み重ねが、七月十四日の裁判所の和解提案や国交省大臣の発言になった。一〇・二四の中央集会を大きな山場にしていく。



●**JR不採用事件** 四者四団体を強化し政治解決を実現する。一〇・二四中央集会成功に向けて運動を強化していく。連合へオプザーバー加盟をしている。国鉄闘争に大きな力になっている。物販活動などオルグの展開、直販、カタログ物販の実現などの活動を通じて、支援共闘組織の強化につながった。七月十四日の裁判所、国交省大臣の発言に大きな期待をもった。●**労働条件改善** 会社は効率化を、さらに進めている。採算ベースにならない地方交通線の廃止について並行在来線を守る会の闘いと結合し運動を進めていく。●**新人事賃金制度** 成果主義について問題だ。学習し交流する場をつくる。廃止に向けての闘いの組織づくりを進める。



当面の日程

- ★9月12日(金)～13日(土)
第22回東日本本部定期大会
湯河原
- ★9月15日(月)～16日(火)
第23回全国貨物協定期委員会
- ★10月6日(月)～7日(火)
第26回地方運協学習交流会
田上町
- ★10月18日(土)
第60回定期地方大会
新潟市『新潟会館』 10時～
- ★10月24日(金)
中央集会
日比谷野音 18時30分～
- ★11月9日(日)
退職者送別会
- ★11月15日(土)
第13回エリア本部マラソン大会
- ★12月7日(日)
年末集会(予定)



●**JR不採用事件** 今大会は重要な大会と考える。七月十四日の裁判所、国交省大臣の発言は大きな解決への道筋へと流れている。十月の中央集会開催が予定されているが、解決の方法をどうするか。三本柱の要求について、政府の力が要だ。民主党、窓口への要請を強化していく。

でも全力を上げる。国会への要請行動や自治体意見書採択への取り組みとそれを活用していく。●**並行在来線** この闘いは、雇用と足を守る闘いとなる。専門の機関を設置した。(並行在来線対策会議)青森県集会を開催し二百五十名結集した。集会では三セク問題など地域との対話集会を開催した。秋にシンポジウムを開催する。



六四〇号から六四二号に、わたって全国大会の特集を企画・編集しました。代議員の発言を系統別に分けて記載すれば良かったかと思いましたが、早く発行したいという思いが先行し代議員の発言順に記載しました。国鉄新聞が二十五日に発送される予定です。配布されましたら参照してください。国鉄新潟で不十分な点があると思います。よろしくお願ひします。

編集後記